

## 学校体育の課題と努力事項

### 小学校体育

令和2年度から全面実施となった学習指導要領では、各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って再整理された。小学校体育科においては、運動領域、保健領域を通じて、それらをバランスよく育むことが求められる。

授業の実践に当たっては、全ての児童が運動の特性や魅力、発達の段階に応じた楽しさや喜びを味わいながら、自己の伸びや成果を積み重ねていく学習を展開することが重要である。そのためには、指導内容の明確化や指導と評価の一体化を図り、各単位時間のつながりを意識した学習過程を組み立て、授業の充実を図っていく。そして、「学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく『楽しい』体育授業」を日々実践していくことで、**運動好きな児童**を育てていきたい。

### 令和3年度の課題

- 1 学習指導の改善・充実
- 2 運動する機会の確保と運動に親しむ取組の工夫
- 3 体育的活動時の事故防止

#### 1 学習指導の成果と現状及び課題

##### 成果

#### (1)「令和3年度小学校体育に関する調査」から

- 授業実践後、次年度に向けて指導計画の修正をしている学校 701校 (100%)
- 単元ごとの具体的な指導計画を作成している学校 70.3% (昨年度66.3%)
- 単元の評価規準を作成している学校 78.0% (昨年度77.0%)

※内容のまとめりごとの評価規準作成状況は100%

#### (2)「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から

##### 【学校質問紙】

- 授業の冒頭で、その授業の目標(めあて・ねらい等)を示している。本県99.3%(全国97.2%)
- 授業の最後に、その授業で学習したことをふり返っている。本県98.6%(全国94.2%)
- 児童同士で助け合ったり、役割を果たしたりする活動を取り入れている。本県98.8%(全国97.0%)

##### 【児童質問紙】

- 体育の授業では、たくさん運動する。  
本県男子96.3%(全国96.0%)本県女子95.8%(全国95.0%)
- 体育の授業で、自分の動きの質が向上していることを実感する。  
本県男子79.7%(全国79.7%)本県女子76.8%(全国75.2%)

#### (3)「令和3年度小学校体育授業研究会」等から

- 1単位時間のねらいを明確にした授業、運動する場面、考える場面、友達や仲間と関わる場面等のバランスを確保した授業が多く見られた。

##### 現状

「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から【体力合計点及び児童質問紙】

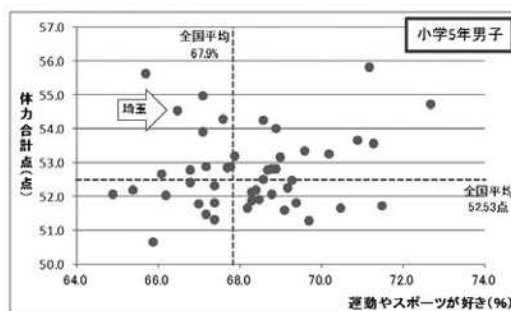
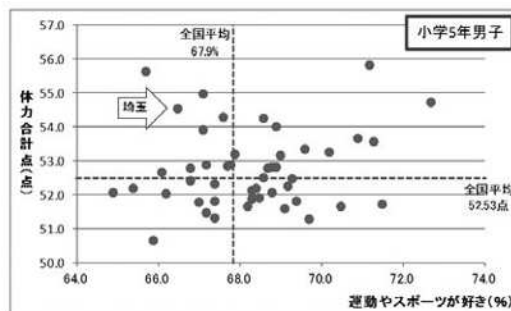


図1 体力合計点と運動・スポーツ好意度の関係

##### 【児童質問紙】

- 体育の授業は楽しい。  
本県男子93.3%(全国93.8%)本県女子89.0%(全国89.2%)

##### 課題

#### (1)単元計画作成及びその実践

- 全ての児童が運動の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わえる学習過程を編成する。
- 育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った指導内容をバランスよく配置し、児童が学習意欲を持続したまま、自ら課題を見付け、その解決に取り組める単元計画を編成する。

#### (2)1単位時間の指導計画及びその実践

- 児童にとって必要感のある「本時のねらい」を示し、ねらいに沿った指導、評価を繰り返す。
- 「ねらい」、「活動」、「振り返りとまとめ」につながりのある体育授業を実践する。

## 2 児童の体力等の成果と現状及び課題

### 成果

「令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」から

- 自分にとって運動やスポーツは大切である。  
本県男子93.1%(全国92.7%)本県女子91.0%(全国90.1%)
- 体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている。  
本県男子71.4%(全国68.6%)本県女子71.8%(全国67.9%)

### 現状

(1)「令和3年度新体力テスト」から

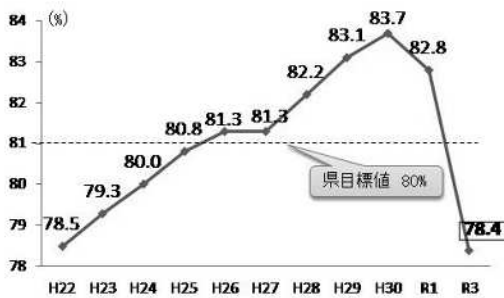


図2 新体力テスト総合評価A+B+Cの割合

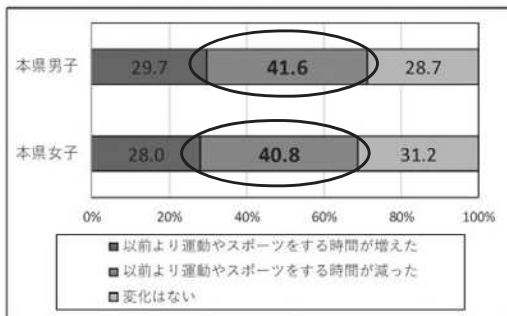


図3 新型コロナウイルス感染症の影響前と現在の運動やスポーツへの取組時間の変化

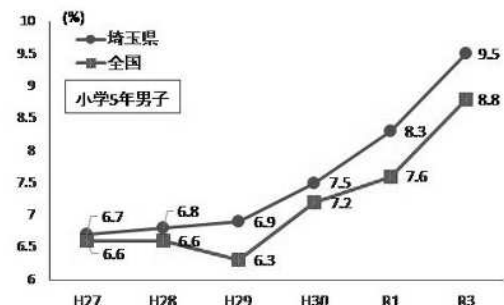


図4 1週間の運動時間が60分未満の児童の割合

### 課題

(1)学校、学年、学級、児童個々の課題の的確な把握

- 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の分析結果や体力プロフィールシート等を活用し、学校、学年、学級、児童個々の課題を的確に把握する。

(2)運動する機会の確保と運動に親しむ取組の工夫

- 業前運動等の意図的な運動や、休み時間の日常的な運動の機会を確保し、運動好きな児童を育てる取組を工夫する。

## 3 体育的活動時の事故の現状と課題

### 現状

「独立行政法人日本スポーツ振興センター資料」から

- R2の体育的活動の事故件数 5,109件(955件減)
- R2の体育授業中の事故件数 4,827件(578件減)
- 学校管理下の事故における体育的活動の事故の割合 37.4%(3.9p増)
- 体育的活動の事故における体育授業中の事故の割合 94.6%(5.5p増)

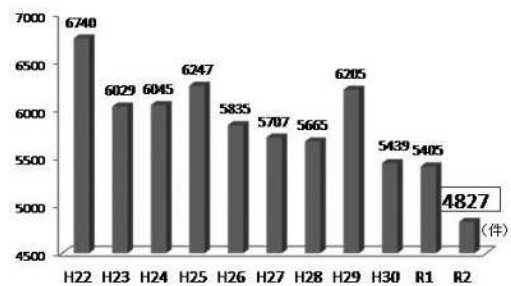


図5 R2小学校体育授業中の事故件数の推移

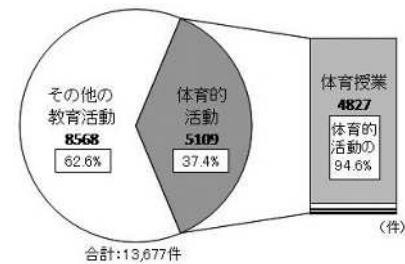


図6 R2小学校学校管理下の事故件数(災害申請件数)

### 課題

(1)危機管理体制の確立

- 事故の未然防止策と発生時の適切な初期対応及び全教職員の役割分担等を明確にし、マニュアルに示すとともに共通理解を図る。

(2)学習規律の確立及び安全に留意する態度の育成

- 適度な緊張感のある、よい雰囲気の中で、効率よく集中して学習に取り組めるように、学習指導要領の「学びに向かう力、人間性等」の安全の内容について継続的に指導・評価を行う。

以上のことから、本年度の課題を次のとおりとする。

### 令和4年度の課題

- 1 学習指導の改善・充実
- 2 運動する機会の確保と運動に親しむ取組の工夫
- 3 体育的活動時の事故防止及び学習規律の確立

## 令和4年度の課題と努力事項

令和2年度から全面実施となった学習指導要領では、資質・能力の三つの柱の育成がバランスよく実現できる授業の実践が求められている。そのためには、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善や、指導と評価の一体化を図りながら、より質の高い学びを実現することが重要である。

また、体育授業を核としながらも、学校教育活動全体を通じて運動する機会を確保し、運動好きな児童を育成することも重要である。

以下に、令和4年度の三つの課題について、その改善のための方策を記す。

### 課題 1

#### 学習指導の改善・充実

#### ポイント

埼玉県の小学校体育科の課題は、児童の体力や運動技能は全国平均と比較しても高い状況でありながら、「運動が好き」「体育の授業が楽しい」と感じている児童の割合が全国平均以下ということである。(P18図1参照)

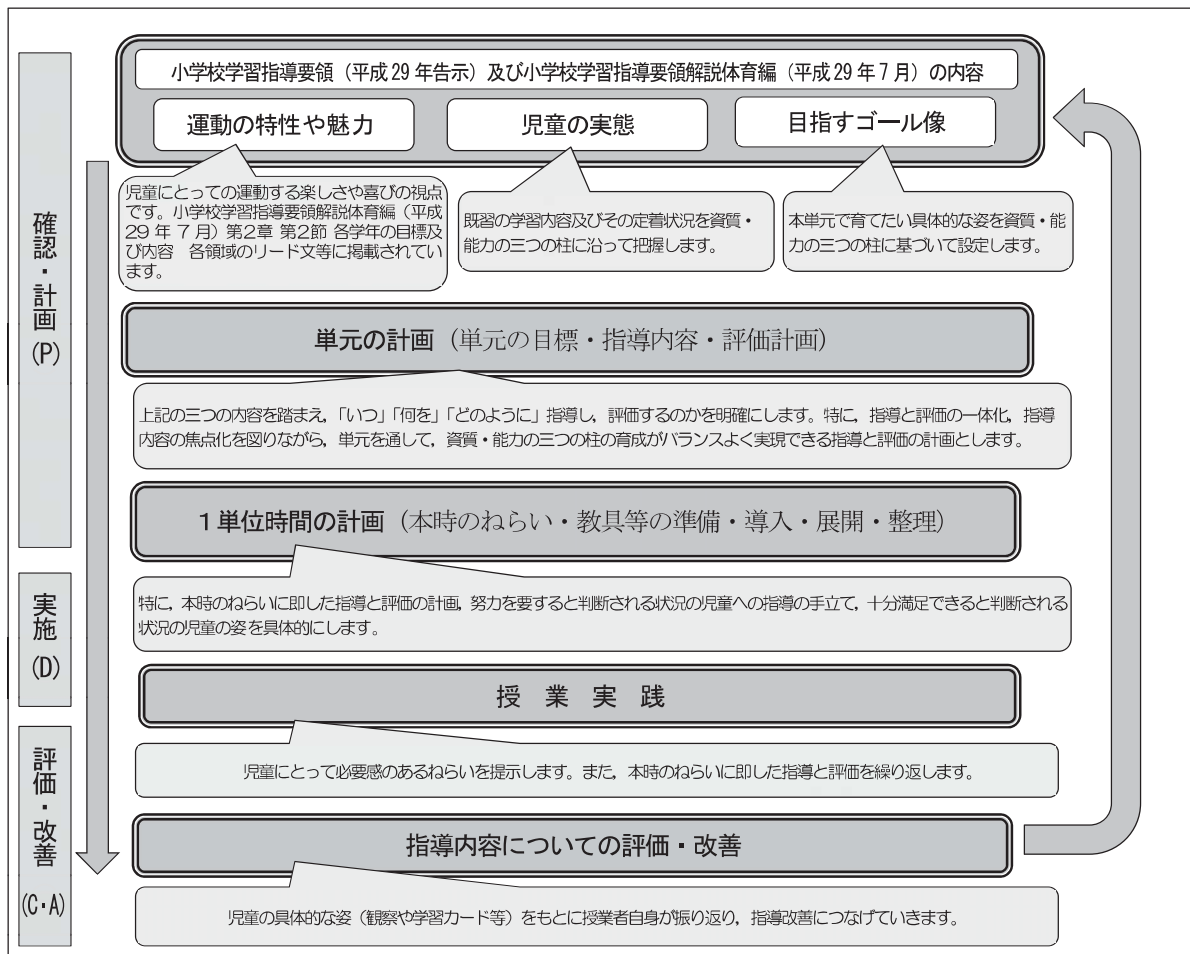
この課題を解決するためには、日々の学習指導を見直し、授業の改善・充実を図っていくことが不可欠である。その視点として、授業を計画していく上での基本的な考え方を示す。

#### (1) カリキュラム・マネジメントの視点に立ったPDCAサイクルの確立

体育科の目標を実現し、運動好きな児童を育成するためには、学習指導要領等に基づき、どのような指導と評価を計画し、それをどのように実

施・評価し、次に向けて改善していくのかという「カリキュラム・マネジメント」の視点に立ったPDCAサイクル確立が求められる。

#### 【PDCAサイクルのイメージ図】



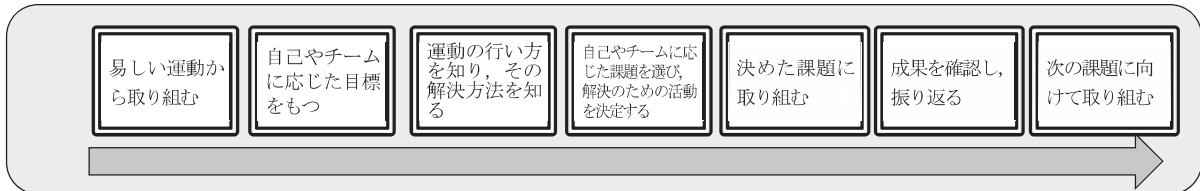
(2) 単元全体を見通した計画の立案

「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善は、必ずしも1単位時間の授業の中で全てが実現されるものではなく、単元全体を見通して改善を進めていくことが重要である。つまり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を考えることは、単元における学びのプロセスを

どのように捉え、指導場面や評価機会をどのように構成するかということである。

特に、単元のゴール像を明確にした上で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図りながら、体育科で育成を目指す資質・能力を児童に育てていくことが大切である。

【単元における学びのプロセス例】 ※中央教育審議会答申別添資料12-3「運動領域における学習過程のイメージ」より抜粋



【単元計画(指導と評価の計画)作成のポイント】 ※単元の流れやポイントは例であり、これに限定されるものではない。

段階	出会う	知って	考えて	高め合う	振り返る
ねらい 指導内容	◎各単位時間のつながりを意識しながら、「いつ」、「何を」、「どのように」指導するのかを明確にします。				
学習 過程	◎「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を、単元を通してバランスよく配置します。				
	<p style="text-align: center;">○本時のねらいを知る</p> <p style="text-align: center;">○感覚づくりの運動をする</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%;"> <p>○教材と出会う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰もができる易しい運動の提示</li> <li>目指す動きの演示</li> </ul> <p>○学習への見通しをもったり、学習の約束を知ったりする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づいた単元のゴール像の提示</li> <li>安全な行い方</li> </ul> <p>○自己やチームの力を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>試しの運動やゲーム</li> </ul> </div> <div style="width: 40%;"> <p>○運動の行い方(動きのポイントや活動の仕方)を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師による示範や児童による演示</li> <li>ICT機器や学習資料の活用</li> </ul> <p>共通の課題を中心に学習を進め、これらの着実な定着を図ります。</p> <p>試しの運動・ゲームを行うなど、実際に動くことを大切にします。</p> </div> <div style="width: 20%;"> <p>○自己やチームの課題を見付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>よい動きとの比較</li> <li>ペアやグループでの見合い</li> </ul> <p>個別最適な学びや協働的な学び、ICT機器の活用から「課題把握→課題解決→新たな課題設定」のサイクルを繰り返します。</p> <p>○課題解決に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>繰り返し取り組める場や課題に応じた場(スモールステップ)の設定</li> <li>達成(できた)と捉える)基準の明確化</li> </ul> </div> <div style="width: 15%;"> <p>育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿って、自己やチームの学びの状況を振り返ります。</p> <p>○自己やチームの変容に気付く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元前後の比較</li> <li>記録会、発表会等</li> <li>個人やチームでの振り返り</li> </ul> <p>次の単元への動機付けを図ります。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">○本時の振り返りとまとめをする</p>				
評価 計画	知・技	◎「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」を、単元を通して適切な機会に配置します。			
	思考 表現 態度	◎1単位時間に評価する項目は、原則一つとし、指導したことを評価します。			
方法 場面	◎「いつ」、「何を」、「どの活動で」、「どのように」評価するののかについて整理します。評価の方法としては、観察、発問、発表、学習カード、ICT機器などが考えられます。				

単元の前半に評価の機会を設定した項目においてBまたはCであったものを、単元の終盤までにAまたはBとなるような指導の充実を図ることが本来の評価の在り方です。



(3) 本時の学習計画の立案

単元計画において配置した指導内容を児童が確実に身に付けるには、1単位時間の授業の充実を図ることが不可欠である。

各時間においては、その時間で指導する内容を明確にし、指導内容に即した評価を実施すると

もに、学習活動の一つ一つが点ではなく線となつてつながり、学びが積み上げられ、深められていくことが重要である。

児童生徒にとってのよい授業

- ・力いっぱい活動できる授業
- ・友達と楽しく活動できる授業
- ・新しい発見がある授業
- ・技能が伸びる授業

※平成30年度 学校体育必修第59号より

【本時の学習計画作成のポイント】

階	学習内容・活動	押さえておきたいポイント
導 入	1 集合、整列、挨拶、健康観察	<p><b>①本時の学習の明確化</b></p> <p><input type="checkbox"/>本時において、児童が何を学び、何を身に付ければよいのかを明確にする。(本時の学習内容とゴール像が描けている。)</p> <p><input type="checkbox"/>単元全体における本時の位置付け(前時からのつながりや、次時へのつながり)を明確にする。</p> <p><b>②主運動を意識した感覚づくりの運動の実施</b></p> <p><input type="checkbox"/>主運動につながる基礎的・基本的な運動を厳選し、運動量を確保しながらも、丁寧に取り組むことで、質の向上を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>児童が主運動とのつながりを意識できるようにし、目的意識をもち、楽しみながら取り組めるようにする。</p> <p><input type="checkbox"/>回数や時間など自己やチームの伸びを実感できる活動を提示する。</p>
	2 準備運動	
	3 学習の場づくり、用具の準備	
	4 感覚づくりの運動 	
展 開	5 本時のねらいや学習内容等の確認 	<p><b>③必要感のある「本時のねらい」や見通しがもてる「学習内容」の提示</b></p> <p><input type="checkbox"/>前時までの学習内容や児童の姿(授業での言動や学習カードへの記述等)から、本時のねらいに迫る発問をし、児童にとって必要感のあるねらいを提示する。</p> <p><input type="checkbox"/>児童が本時で何を学べばよいのかがわかるように、学習内容を具体的に提示する。</p> <p><b>④豊富な運動学習場面(運動量)の確保</b></p> <p><input type="checkbox"/>単元及び本時の計画段階で全体を見通して、児童が主体的に運動に取り組める時間を多く確保する。</p> <p><input type="checkbox"/>単元のはじめに学習の約束や役割等を明確に示し、それを徹底することで学習規律の確立を図る。</p> <p><input type="checkbox"/>教師の全体指導の回数を精選し、端的に分かりやすく指導する。</p> <p><b>⑤個別最適な学びの充実</b></p> <p><input type="checkbox"/>児童の特性や学習状況を把握した上で、一人一人に応じた方法・教材等で指導する。</p> <p><input type="checkbox"/>児童一人一人に応じた学習課題や活動を設定し、主体的に学習に取り組めるようにする。</p> <p><b>⑥協働的な学びの充実</b></p> <p><input type="checkbox"/>目指すゴール像を友達や仲間と共有した上で、繰り返し関われる機会を設定する。</p> <p><input type="checkbox"/>具体的な学びの姿を示し、インプットやアウトプットの方法を指導する。</p> <p><input type="checkbox"/>協働的な学びによる価値を全体で共有する。</p> <p><b>⑦ICT機器の活用</b></p> <p><input type="checkbox"/>資質・能力の育成を図るための手立てとし、「いつ」「誰が」「何を」「どのように」活用するのかを明確にする。</p> <p><input type="checkbox"/>活動そのものの低下を招かないよう留意する。</p>
	6 ねらいに即した活動	
	・運動の行い方を知る	
	・課題を把握する	
	・課題を解決する	
	・考えたことを伝える	
・友達や仲間と協力する		
・成果を確認する など		
		
		
		

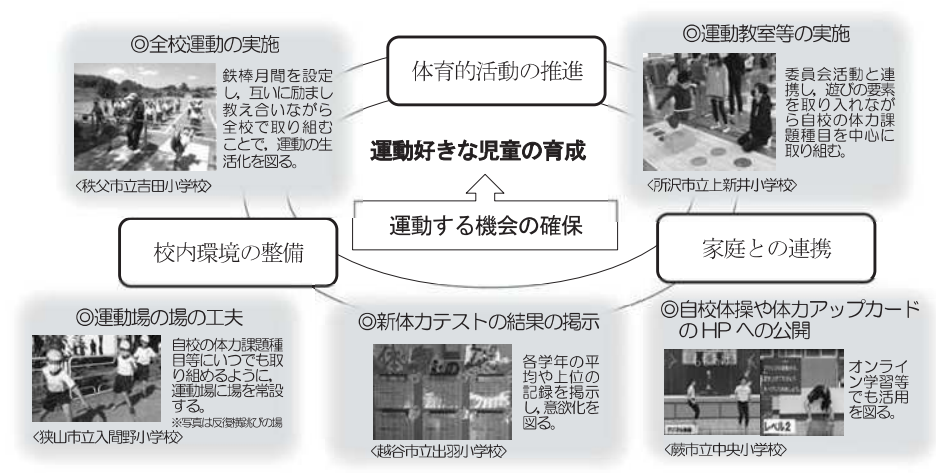
<p>学習指導要領解説体育編の各領域の内容に示されている 「運動が苦手な児童への配慮の例」 (知識及び技能) 「運動が意欲的でない児童への配慮の例」 (学びに向かう力、人間性等) を参考にする。</p>	<p>⑧指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 本時のねらいに沿った指導と評価を繰り返す。</li> <li><input type="checkbox"/> 指導したことを評価する。</li> <li><input type="checkbox"/> 「努力を要すると判断される状況の児童への指導の手立て」を具体的に示し、指導する。</li> <li><input type="checkbox"/> 規準を満たしている児童には、「十分満足できると判断される状況の児童の具体的な姿」を目指し、指導する。</li> </ul>
<p>7 片付け 8 整理運動 9 学習の振り返りとまとめ 10 整列、健康観察、挨拶</p>	<p>⑨「振り返り」と「まとめ」の重視</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 児童が本時のねらいに沿って自己の学習活動を振り返る時間を確保する。</li> <li><input type="checkbox"/> 本時のねらいに沿って学習活動を振り返り、評価し、まとめをして、本時の学習活動の価値を実感したり、次時の学習へとつなげたりする。</li> </ul>

## 課題 2

### 運動する機会の確保と運動に親しむ取組の工夫

**ポイント**  
 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前と現在を比較し、約4割の児童が「運動やスポーツをする時間が減った」と回答している。また、1週間の運動時間が60分未満の児童の割合も、全国平均との比較では依然として多い状況にある。(P19図3, 4 参照)  
 このような状況を改善するには、体育授業に加え、学校教育活動全体を通じて、様々な工夫により運動の機会を確保し、運動好きな児童を育てることが重要である。

【運動する機会の確保と運動に親しむ取組の例】※令和3・4年度埼玉県体力課題解決研究指定校の取組より



## 課題 3

### 体育的活動時の事故防止及び学習規律の確立

平成30年度以降、体育的活動中の事故件数は減少しているものの、体育授業中の事故の割合は増加している。体育施設や用具等の定期的な点検、体育授業時の約束事の徹底など、未然の事故防止対策を講じるとともに、事故が起きてしまった際の適切な対応について、全教職員で共通理解を図ることが重要である。

併せて、児童自身が安全に対する意識をもって活動できるように、「学びに向かう力、人間性等」の安全の内容について、継続的に指導・評価していくことも重要である。



※体育授業時における約束事の共通理解を図るための示範授業(秩父市立吉田小学校の実践より)